

## 答申案新旧比較表

答申（案）	骨子（案）	委員の意見
<p><b>1 基本的考え方</b></p> <p>長寿化を背景とした急速な高齢化の進行に伴い、高齢者を取り巻く社会環境は、生活不安を抱える高齢者の増加、地域社会の支え合いの脆弱化など大きく変化するとともに、高齢者の意識も地域住民の助け合いの重視、定年後の地域活動への参加意欲の高まりなど変化している。</p> <p>このような変化を踏まえ、千葉県生涯大学校は、高齢者が社会的活動に参加するために必要な支援をすることに重点を置くべきである。</p> <p>したがって、今後の大学校の運営においては、高齢者が地域の様々な課題解決に向け、専門性と実践力を身につけ、地域活動の担い手として活躍することができるよう人材の養成を進めていく必要がある。</p> <p><b>2 県の役割について</b></p> <p>家族や地域社会の絆が薄れつつある中、今後、一層の少子高齢化の進行に伴い、日常生活に不安を抱える高齢者の増加が見込まれるなど、地域活動の担い手となる人材の養成はまさに喫緊の課題である。</p> <p>県が平成22年3月に決定した新たな総合計画「輝け！ちば元気プラン」においては、地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域コミュニティの再生を政策目標の一つに掲げ、「退職期を迎えている団塊の世代や高齢者などが、豊富な人生経験などを生かしながら、(中略)地域づくりの担い手として、ますます元気に活躍できるよう、地域活動に必要な知識などの習得を促進し、市町村などと協働しながら地域活動への積極的かつ円滑な参画の在り方を検討」することを主な取組の一つと位置づけている。</p> <p>地域づくりの担い手の養成の取組は、地域に密接に関わる市町村行政の役割が期待されるところであるが、事業の運営効率等の事情により、単一の市町村のみで取組を進めることは、なかなか困難な状況にある。</p> <p>このような状況を踏まえ、県は、今後の生涯大学</p>	<p>(変更なし)</p> <p>・・・専門性と実践力を身につけ、地域活動の推進者として・・・</p> <p><b>1 当面の見直し</b></p> <p>(県の役割)</p> <p>今後、要援護高齢者が大幅に増加する中、地域福祉の担い手となる人材の養成は重大な課題である。</p> <p>しかし、市町村においては、そのための仕組みづくりがまだ十分に進んでいない。</p> <p>このため、市町村において自立的に人材養成ができるまで、当分の間、県において公の施設</p>	<p>生涯大学校がこれから果たしていく役割をもっと前向きに出したほうがよい。</p> <p>「勉強することが楽しい」から「学</p>

<p>校の役割について、「学びと仲間づくりの場」から「学んだことを地域活動に繋げる場」としての役割に重点を置くとともに、市町村と連携しながら地域課題を共有し、公の施設を利用しつつ、地域活動の担い手となる人材の育成を進めるべきである。</p> <p><b>3 課程・学科の見直しについて</b></p> <p>生涯大学の課程・学科については、地域活動の担い手となる人材の育成を進める視点から、見直す必要がある。</p> <p>カリキュラムについては、いわゆるカルチャースクール的なものは、市町村や民間事業者等においても実施していることから、今後の生涯大学のカリキュラムは、人材育成に重点を置き、学生や卒業生が主体的に地域活動に参加できるよう、ネットワークづくりのノウハウや、実際に地域活動をしている人々との交流等、専門性と実践を重視した内容に見直すべきである。</p> <p>なお、カリキュラムの編成に当たっては、高齢者の社会参加と学習の意欲は、生きがいの高揚と健康の維持増進により支えられていることに留意し、利用者にとって魅力ある内容とすることが重要である。また、今後、高齢期を迎える団塊の世代の学習と社会参加のニーズに応えるものとするよう留意する必要がある。</p> <p>学科の名称については、生涯大学の今後の役割やカリキュラムの内容を反映させた、県民にわかりやすい名称に変更する必要がある。</p> <p><b>4 修業年限・定員の見直しについて</b></p> <p>生涯大学の修業年限は、一般課程、専攻課程、通信課程とも2年間であるが、今後は、地域における人材ニーズの増加に対応するため、より多くの人材を養成し、地域社会へ輩出できるよう修業年限の短縮を図るべきである。</p> <p>また、各学園の定員については、課程・学科の見直しを行う際に、各地域の入学希望者の需要を的確に把握し、適正規模とするよう見直しを行う必要がある。</p> <p>入学者の募集や選考においては、社会貢献活動を志向する者の入学に配慮すべきである。</p>	<p>を利用しつつ市町村と連携しながら、地域福祉活動の推進者となる人材を養成する必要がある。</p> <p>(課程・学科)</p> <p>県・市町村・民間企業等の役割分担を踏まえつつ、地域福祉活動の推進者を養成する視点から、課程・学科を見直す必要がある。</p> <p>(修業年限・定員)</p> <p>社会的な人材ニーズの増加に対応するため、より多くの人材を養成することができるよう、修業年限の短縮や定員の見直しを行う必要がある。</p>	<p>んだことを地域活動に繋げる」ための取組を県と市町村が連携して行うことが重要。</p> <p>カルチャースクール的なものは市町村もやっているので、県の役割として地域活動の担い手の人材育成を図るべき。</p> <p>地域で活動している人々との交流等の実習をカリキュラムに取り入れるべき。</p> <p>地域活動をするための仲間づくり、ネットワークづくりのノウハウをカリキュラムに取り入れるべき。</p> <p>現行のカリキュラムは高齢者の生きがいと健康に寄与しており、趣味的なカリキュラムも大切。</p> <p>学科の名称を福祉科ではなく、地域づくりを目指したものであることが分かるように変更することも必要。</p> <p>誰でも入れるのではなく、ボランティアに参加しようという意思のある人を優先すれば活性化するのではないか。</p>
--	--	--

<p><b>5 その他</b></p> <p>生涯大学校が、地域活動の拠点としての役割を果たすためには、地域ごとに学園が存在することが望ましい。</p> <p>しかし、地域によって県民の高齢期のライフスタイルや意識に差があり、学園ごとの入学希望者数の状況も異なることから、課程・学科の見直しを進める中で、中長期にわたって入学希望者の需要が見込めない場合には、効率的な運営を確保する観点から、施設の統合も含めた学園の配置の見直しを検討する必要がある。</p> <p>また、見直しに伴い、使用しなくなる施設が生じる場合には、施設の有効活用の観点から、これらの施設の市町村や民間への移譲について検討する必要がある。</p> <p>これらの見直しを実施するに際しては、職員の適正配置等、人件費の効率化を進めるとともに、施設の空き時間の一層の活用についても検討する必要がある。</p> <p>また、コストと負担のあり方についても検討する必要がある。</p>	<p><u>(施設の配置)</u></p> <p>課程・学科・定員の見直しに伴い、使用しなくなる施設が生じる場合には、施設の統廃合を検討するとともに、施設の有効活用の観点から、これらの施設の市町村や民間への移譲について検討する必要がある。</p> <p><b>2 中長期的な見直し</b></p> <p><u>市町村における人材養成のための仕組みづくりの進捗状況を踏まえ、施設及び事業を市町村等へ順次移譲し、県事業としては縮小していくことが望ましい。</u></p> <p><u>移譲後の県の役割としては、地域リーダーの能力向上のための研修の実施、情報提供、市町村や社会福祉協議会と連携した広域的な課題解決のための調整等を担うことが期待される。</u></p>	<p>地域によっては、農業など生涯現役で仕事をしている方もおり、通学できない事情もあることに留意すべき。</p> <p>地域によって温度差があり、応募の状況も違う。場所によっては統合や科目の変更も理解できる。</p> <p>効率的な運営の観点から施設全体の配置を見直すことも考える必要がある。施設の空き時間を生涯大学以外にも活用したり、人件費等の効率化を検討していくべき。</p> <p>団塊の世代が高齢期を向かえているが、団塊の世代は高学歴であるので、生涯大学校は内容を充実して存続すべき。そのための課程、学科の見直しは必要。校舎の集合は大賛成。</p> <p>当面、ごまかしてやるとの印象がある。県として必要か必要でないかでやる。必要ならばしっかりやる。必要でないならきっぱりとやめる。</p> <p>今後の生涯大学校の役割を考えると統合はあってもよいが、全くなくなるのは寂しい。</p>
---	--	--

**その他の意見**

- ・ ボランティア活動に参加することは生きがいにつながる。
- ・ 学校へ行って終わりではなく、ボランティアの喜びを感じて欲しい。
- ・ 現状は陶芸科や園芸科の応募が多く、福祉科の応募が少ない現状にも留意すべき。
- ・ 生涯大学校の卒業生も老人クラブに入って活躍して欲しい。これから連携を密にしていきたい。